

令和 6 年度

学校評価



上尾市立上尾中学校

令和6年度 上尾市立上尾中学校学校評価

上尾市立上尾中学校

校長 増田 司

1 総合得点及び評価について

質問項目のA～Dは回答者の割合を示した。A～Dの評価内容は、以下のとおりとした。

A=よくできた B=まあまあできた

C=あまりできなかった D=できなかった

平均得点について、A=4点 B=3点 C=2点 D=1点 とし、それぞれの数を乗じて総数で除した。

2 本年度の重点取組事項

(1) 基礎学力及び基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを推進する。

○ICTを活用した学校行事の工夫や授業改善・工夫を積極的に進める。

○提出物指導、補充的な補修学習指導、フォローアップウィークを充実させる。

○SDGsの視点を取り入れたシティズンシップ教育を系統的に推進する。

(2) 教育相談体制を機能させ、きめ細かい丁寧な不登校対策を推進する。

○生徒、保護者の立場に立った、きめ細かい丁寧な相談を行う。

○教育相談委員会を中心として情報共有を進め、学校全体で組織的に対応する。

○関係機関、SSW、校内専門スタッフと連携を密にして、個々の状況に応じた必要な支援を実施する。

(3) 市民・県民に誇れるコミュニティ・スクール上尾中の取組を推進する。

○コミュニティ・スクールとしての積極的な情報発信を工夫する。

○学校と地域が共通の目標実現を目指し、協働活動を工夫する。

(4) 静かで、きれいで、温かい学校生活を維持・発展させる。

○いじめの早期発見、早期対応を行い、誰もが安心できる学習環境を築く。

○きれいな黒板、整った机、きれいな窓、ゴミのない床、整った靴箱を維持する。

○生徒も教師も、進んであいさつ・返事を行う。

(5) 自らの働き方を見直し、持続可能で健全な職場をみんなで創る。

○計画的に休暇を取得し、積極的な健康管理を行う。

(特に、年休5日以上、リフレッシュ休暇・マイリフレッシュの完全取得)

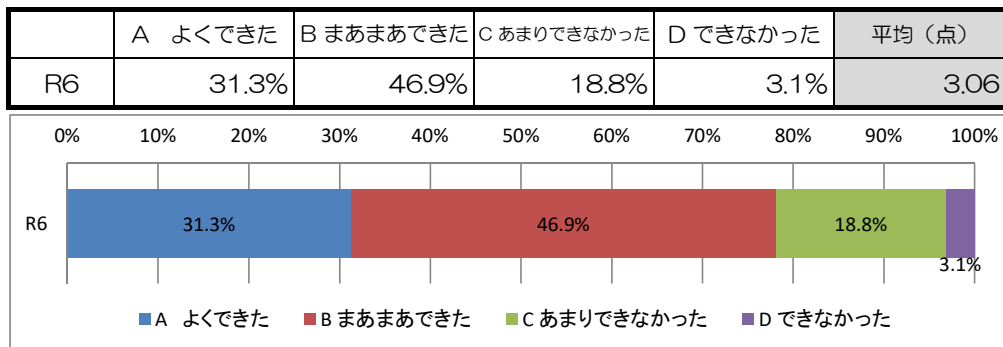
○時間外在校等時間を意識し、自らのワークライフバランスを見直す。

○業務の負担軽減のため、会議の効率化、教育活動の見直し・改善を進める。

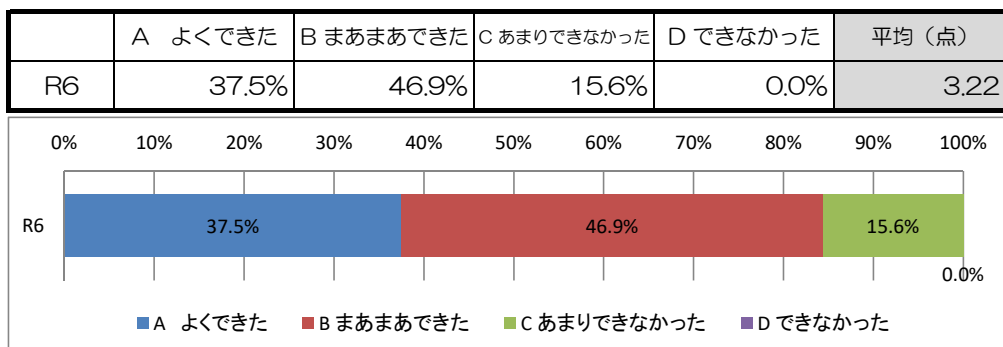
令和6年度 自己評価(職員)

項目1～3: 学力の定着、主体的・対話的で深い学び

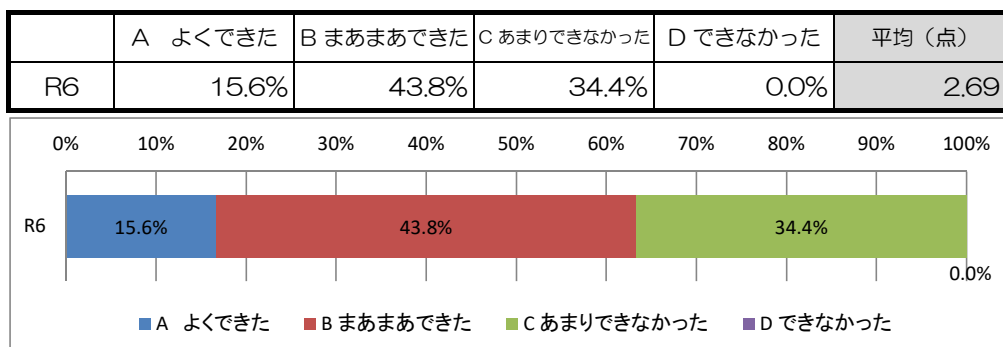
1 ICTを活用した学校行事の工夫や授業改善・工夫を積極的に進める。



2 主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行う



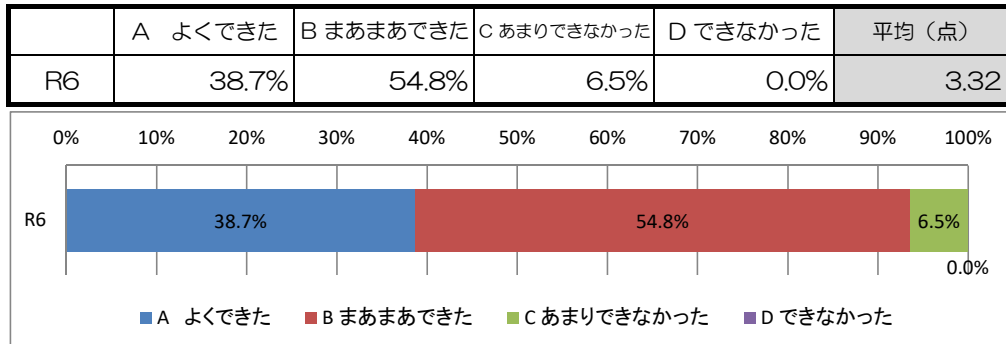
3 SDGsの視点を取り入れたシティズンシップ教育を研究・推進する



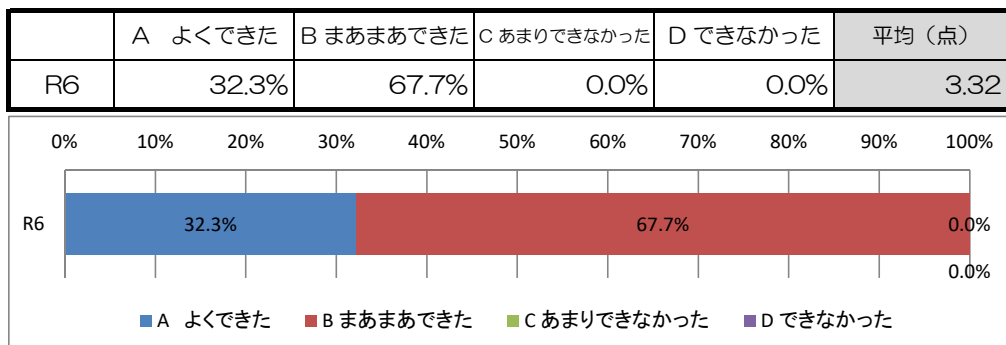
令和6年度 自己評価(職員)

項目4～6:教育相談体制

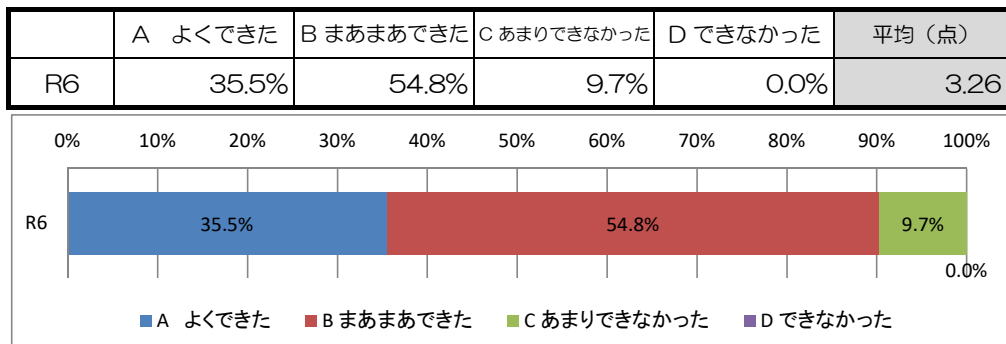
4 生徒、保護者の立場に立った、きめ細かい丁寧な相談を行う。



5 教育相談委員会を中心として情報共有を進め、学校全体で組織的に対応する。

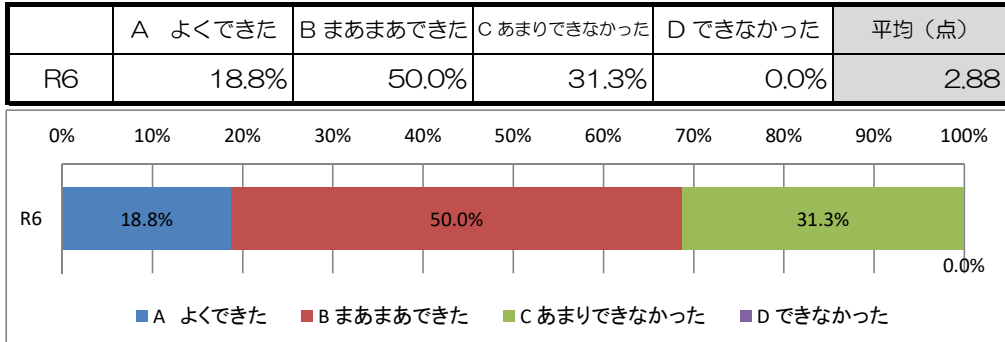


6 関係機関、SSW、校内専門スタッフと連携を密にして、個々の状況に応じた必要な支援を実施する。

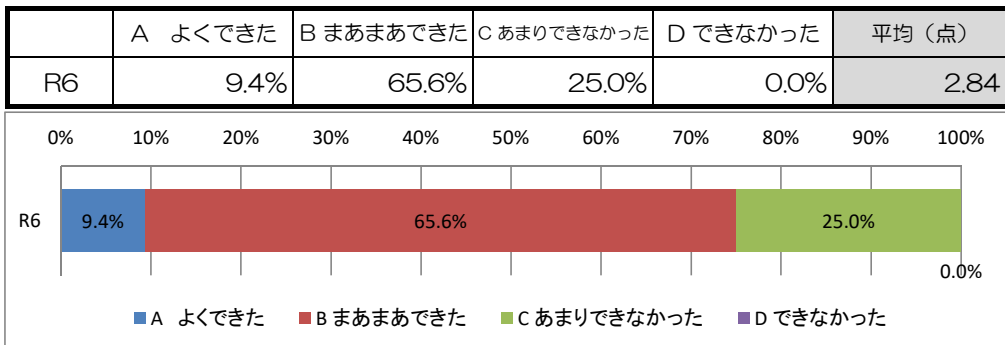


項目7～9:コミュニティ・スクール

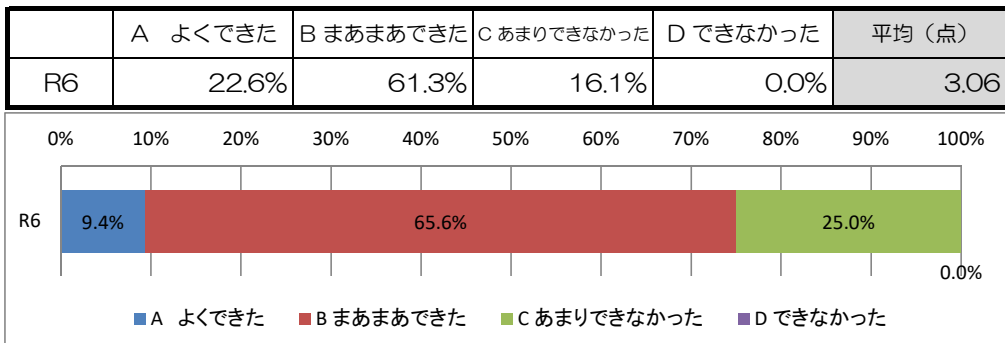
7 コミュニティ・スクールとして積極的に地域と関わり、情報発信を工夫する。



8 学校と地域が共通の目標実現を目指し、協働活動を工夫する。



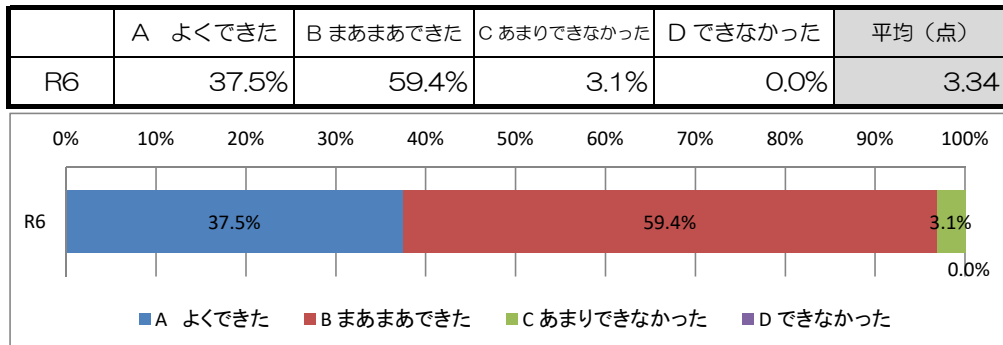
9 学校区小学校と連携し、生徒の育成を図る。



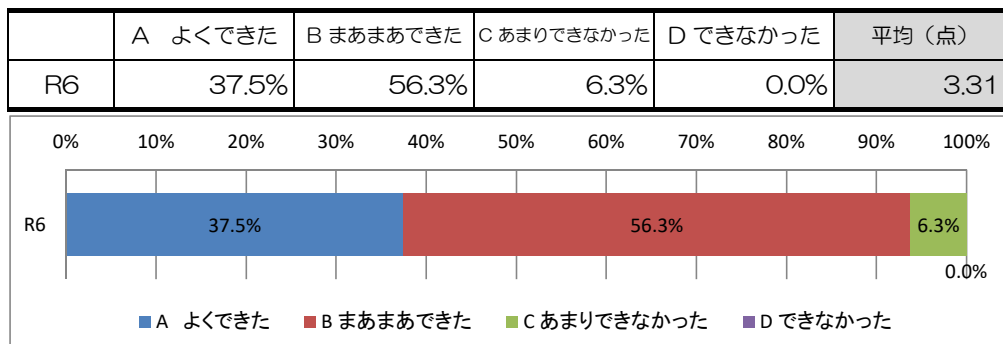
令和6年度 自己評価(職員)

項目10～12: 静かで、きれいで、温かい学校生活

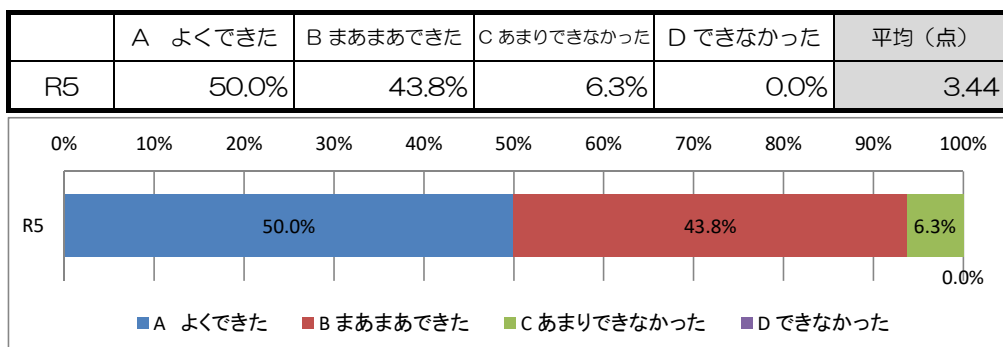
10 いじめの早期発見、早期対応を行い、誰もが安心できる学習環境を築く。



11 きれいな黒板、整った机、きれいな窓、ごみのない床、整った靴箱を維持する。



12 生徒も教師も、進んであいさつ・返事を行う。

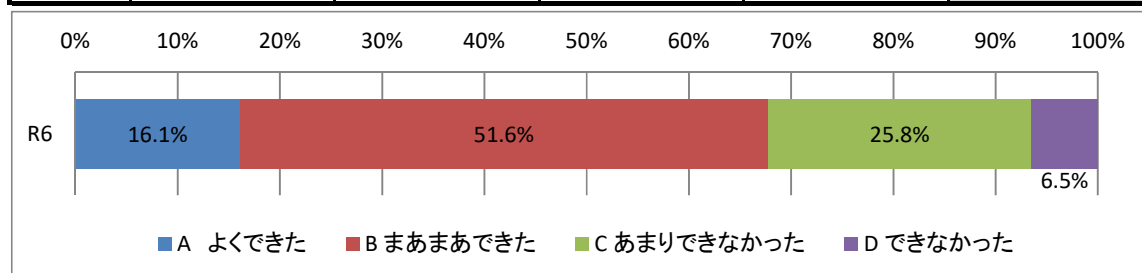


令和6年度 自己評価(職員)

項目13・14:健全な職場

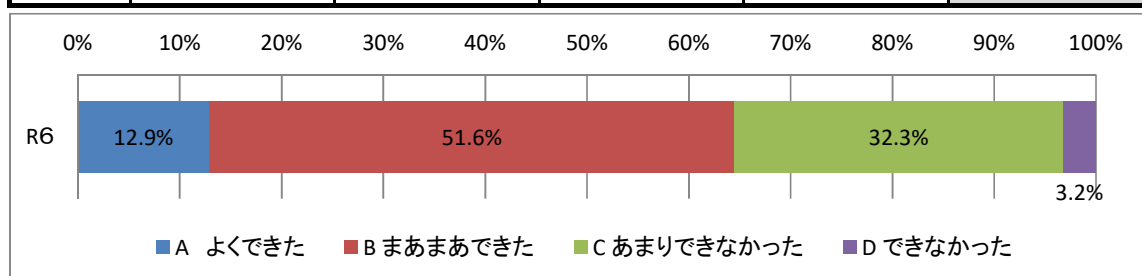
13 自らのワークライフバランスを問い直し、積極的な健康管理を行う。

	A よくできた	B まあまあできた	C あまりできなかった	D できなかった	平均(点)
R6	16.1%	51.6%	25.8%	6.5%	2.77



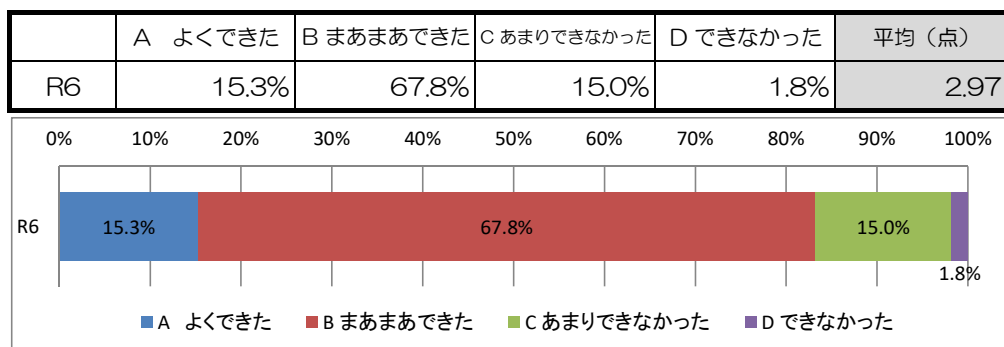
14 業務の負担軽減のため、教育活動の見直し・改善を進める。

	A よくできた	B まあまあできた	C あまりできなかった	D できなかった	平均(点)
R6	12.9%	51.6%	32.3%	3.2%	2.74

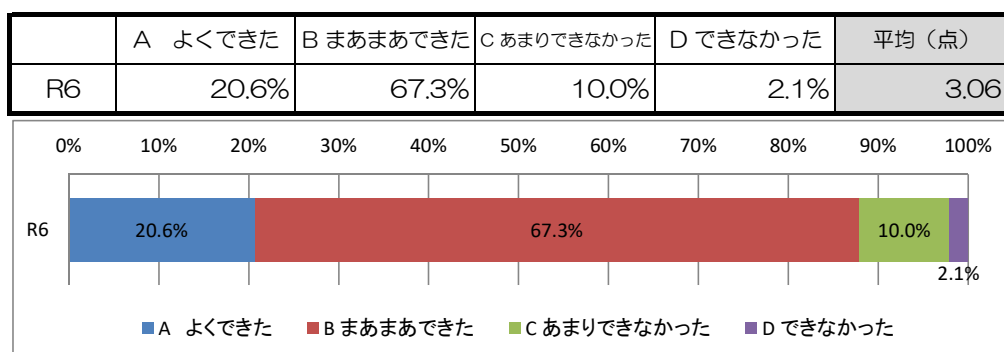


<参考> 令和6年度 保護者アンケート

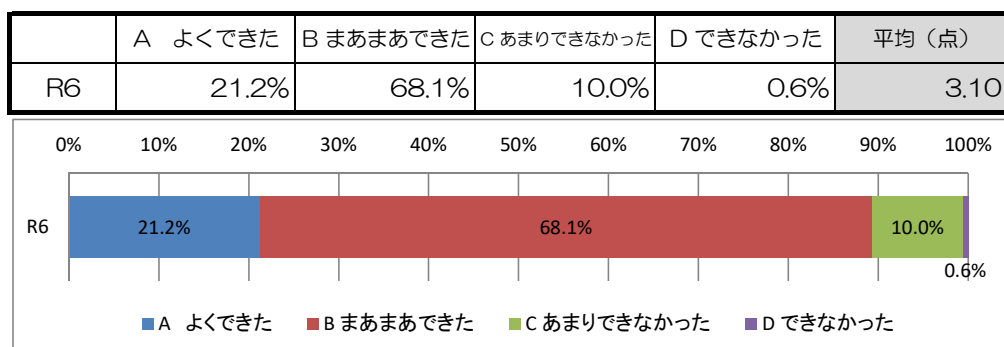
1 学校は、生徒の学力向上のために分かりやすい授業を行っている。



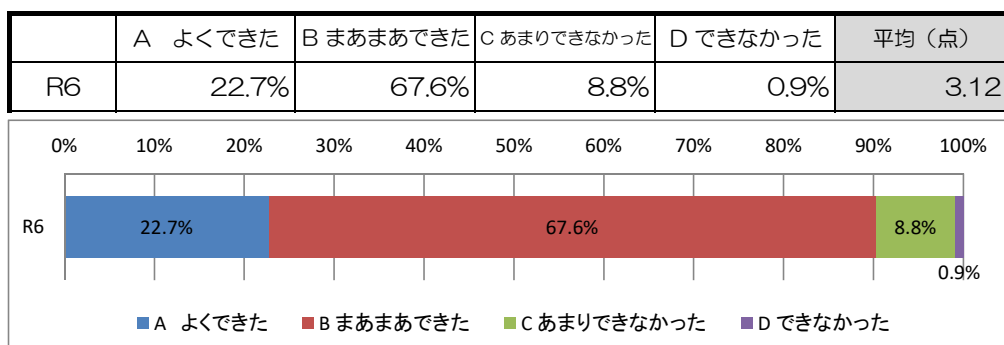
2 学校は、生徒の心の育成にしっかり取り組んでいる。



3 学校は、生徒の体力向上にしっかりと取り組んでいる。

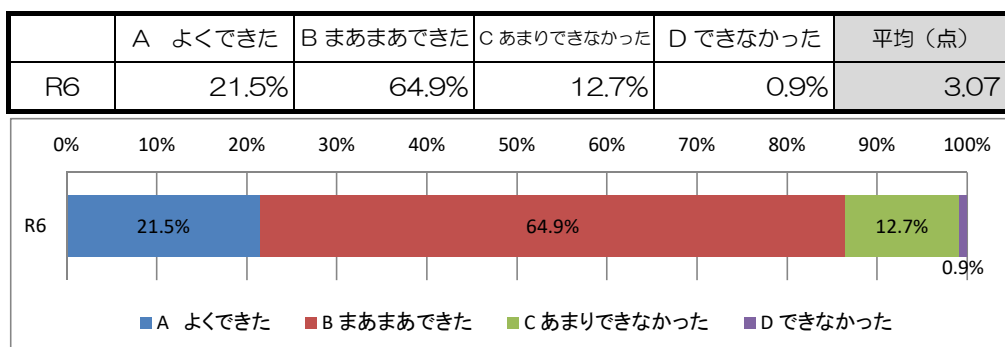


4 学校は、社会のルールやモラルについて適切に指導をしている。

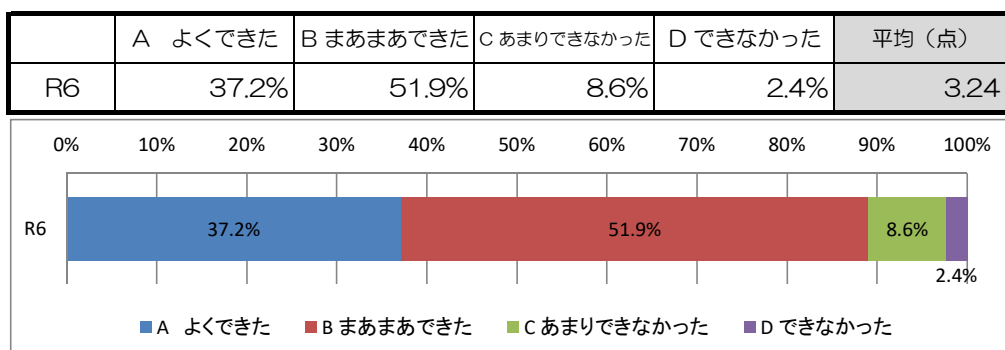


<参考> 令和6年度 保護者アンケート

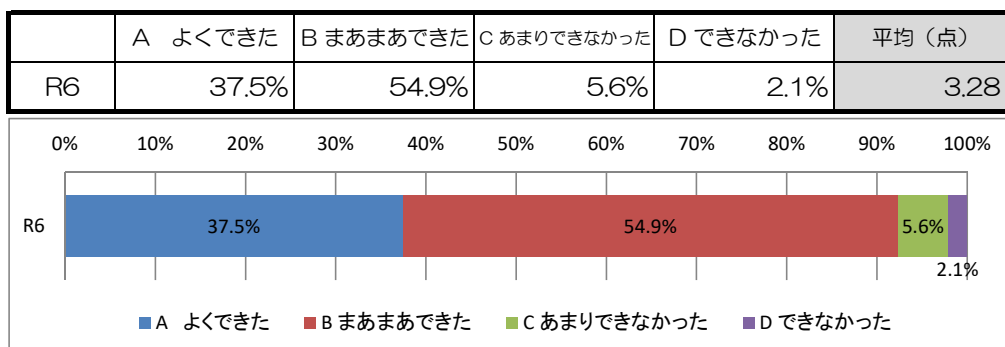
5 学校は、教育方針等を分かりやすく伝えている。



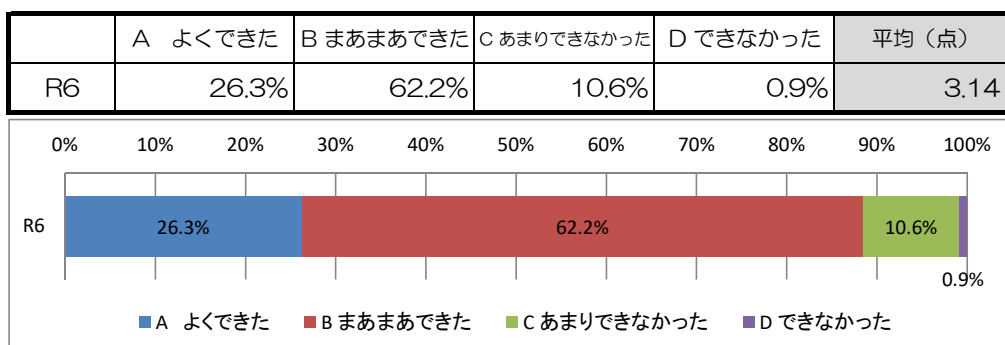
6 教職員は、生徒や保護者の相談に親身になって応じている。



7 学校は、教職員は、接遇やマナーがしっかりしている。

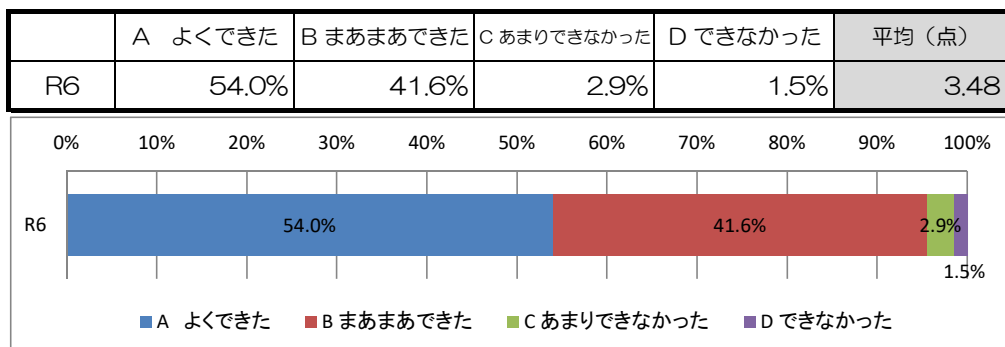


8 学校は、コミュニティ・スクールとして地域と連携している。

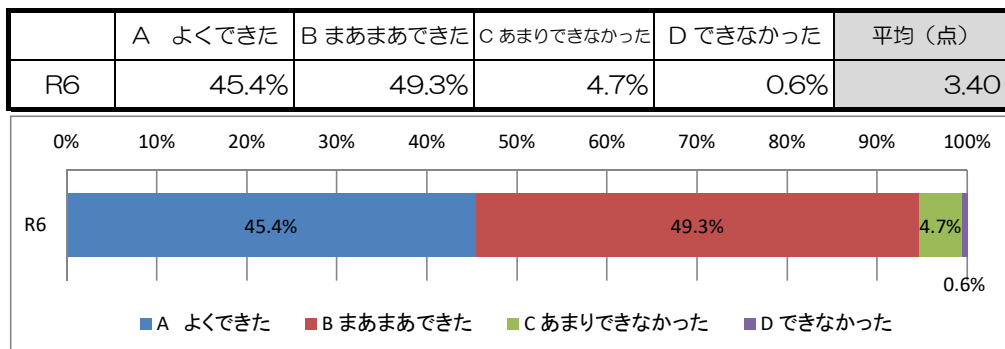


<参考> 令和6年度 保護者アンケート

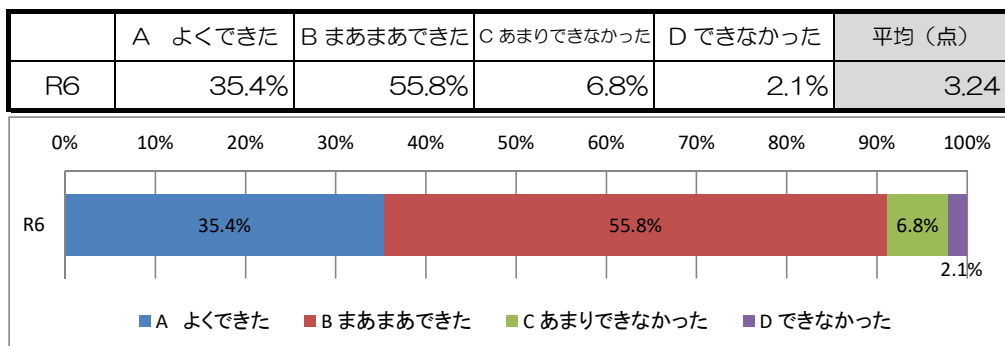
9 学校は、体育祭や合唱祭等の学校行事が適切に行われている。



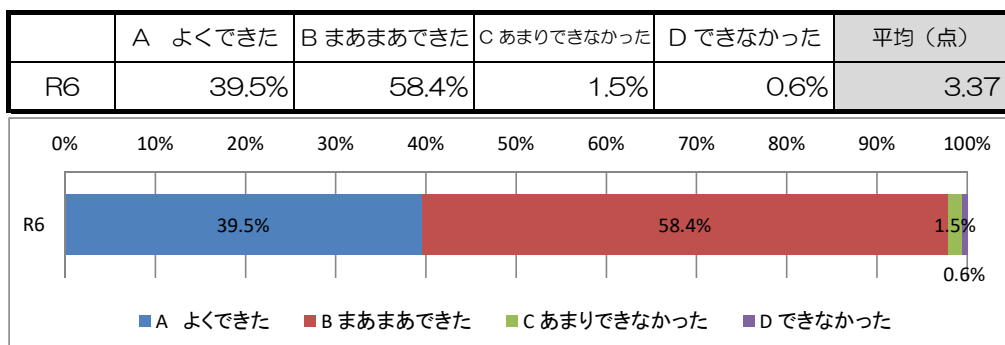
10 学校は、さくら連絡網やホームページ等の活用を含め、家庭との連携を適切に行っている。



11 学校は、雰囲気がよく、生徒が毎日楽しく学校生活を送っている。

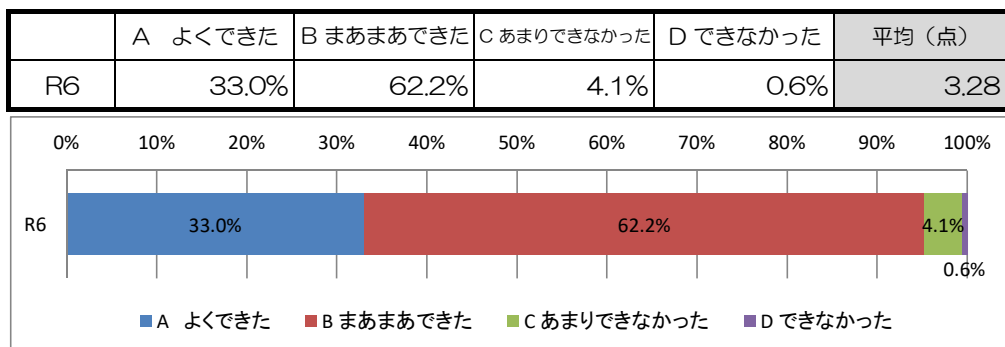


12 学校は、施設設備等の清掃がよく行き届き、管理を適切に行っている。

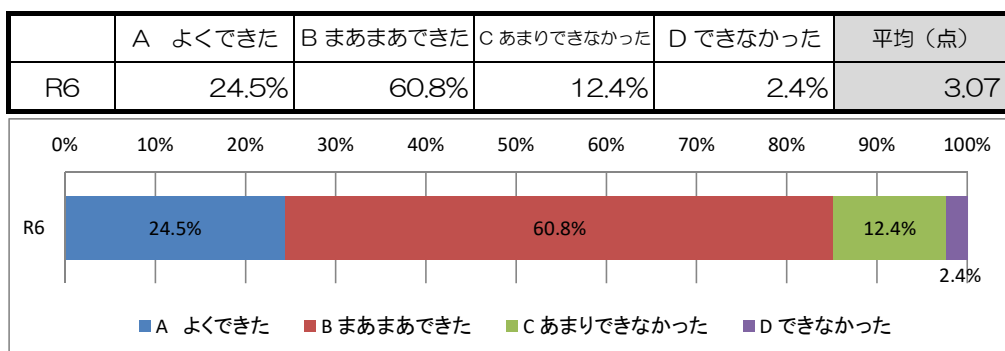


<参考>令和6年度 保護者アンケート

13 学校は、生徒の健康や安全、事故防止に配慮した教育活動を行っている。

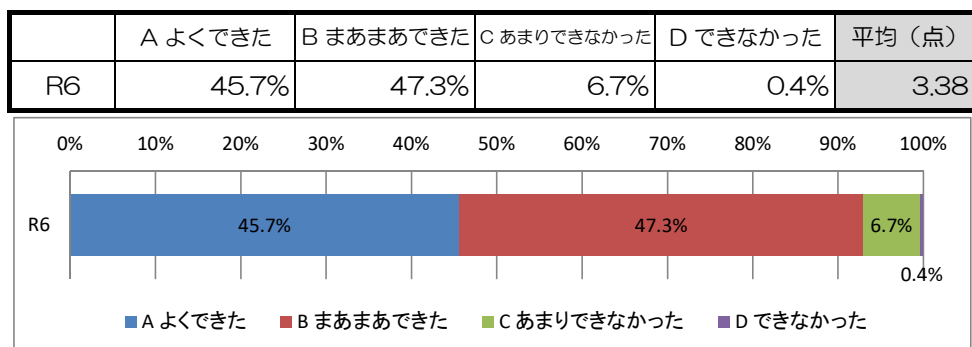


14 上尾中学校の生徒は、あいさつがよくできる。

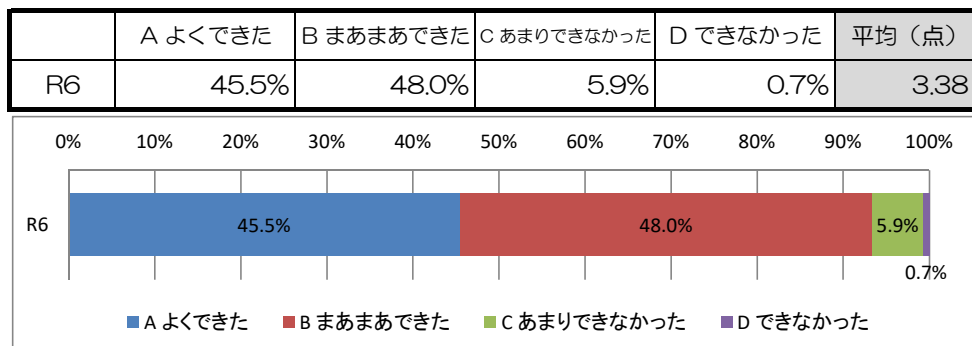


<参考> 令和6年度 生徒アンケート

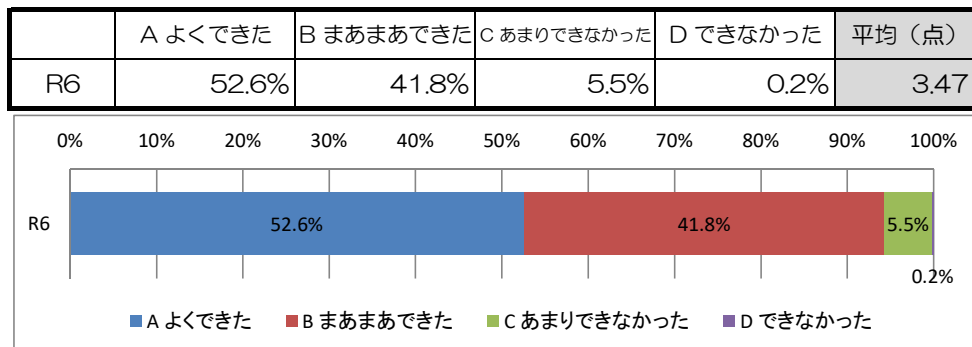
1 授業は楽しく、よくわかる。



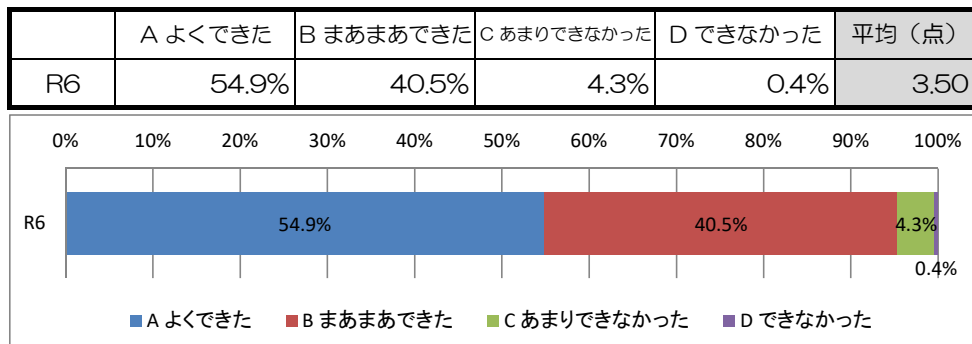
2 学習に自ら興味や関心をもって粘り強く取り組み、生徒同士の協働や対話を通じて自己の考えを広げた。



3 授業の学習にしっかり取り組んだ。

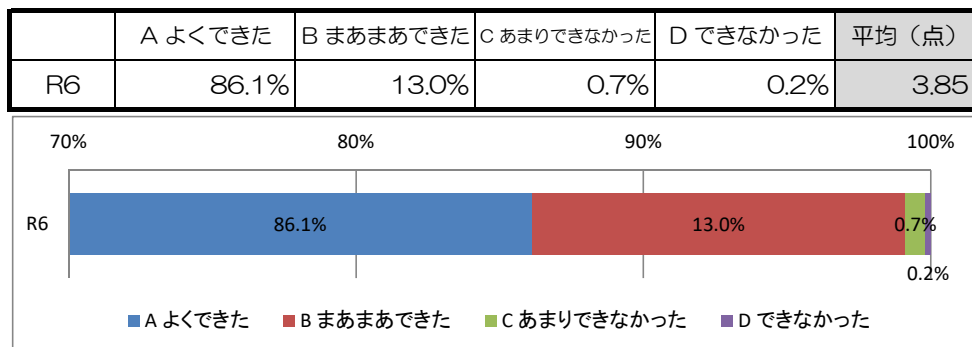


4 総合的な学習の時間などにおいて、探求的な学習に取り組めた。

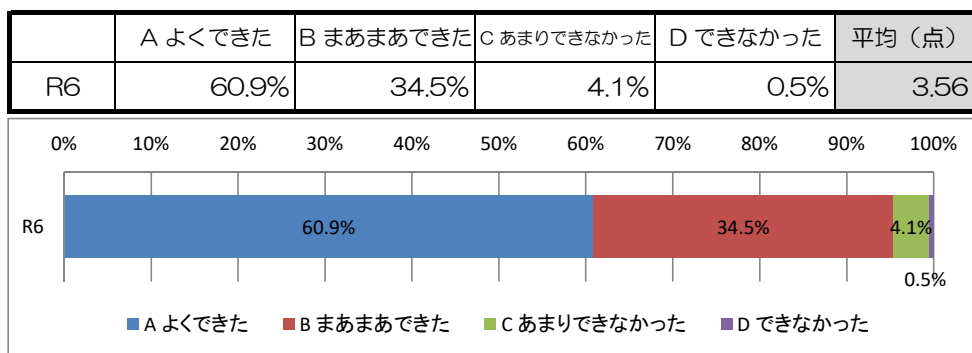


<参考> 令和6年度 生徒アンケート

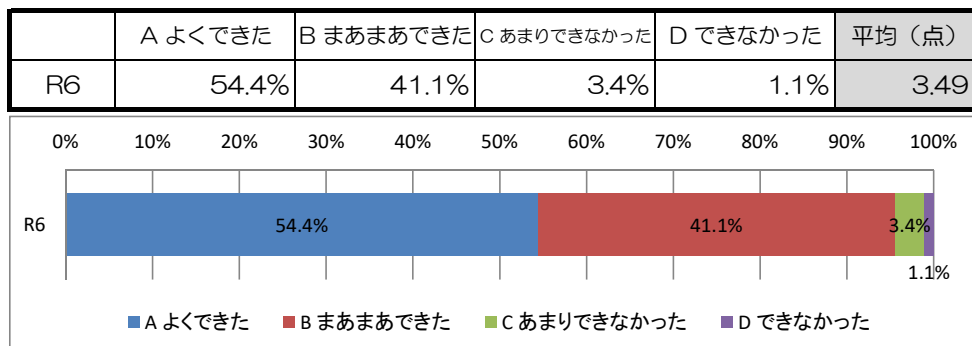
5 友だちを大切にすることができた。



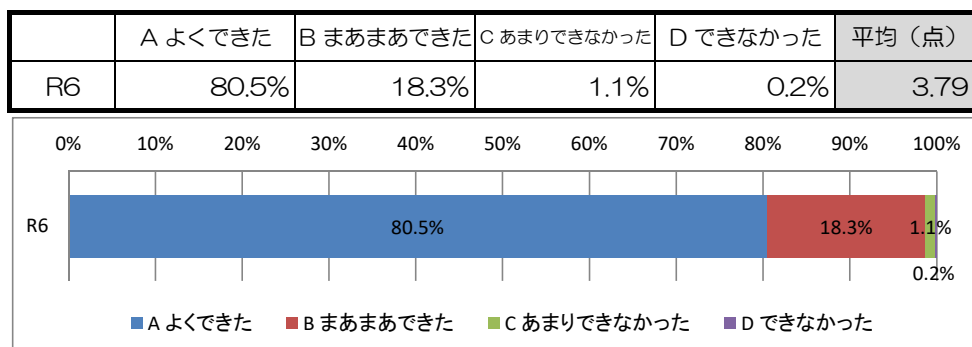
6 きまりを守り、けじめのある落ち着いた学校生活を送ることができた。



7 丁寧な言葉づかいや態度をとることができた。

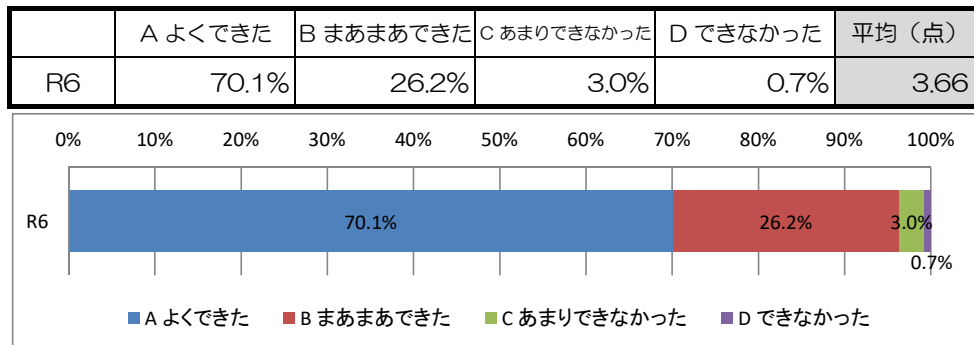


8 学校行事に積極的に取り組むことができた。

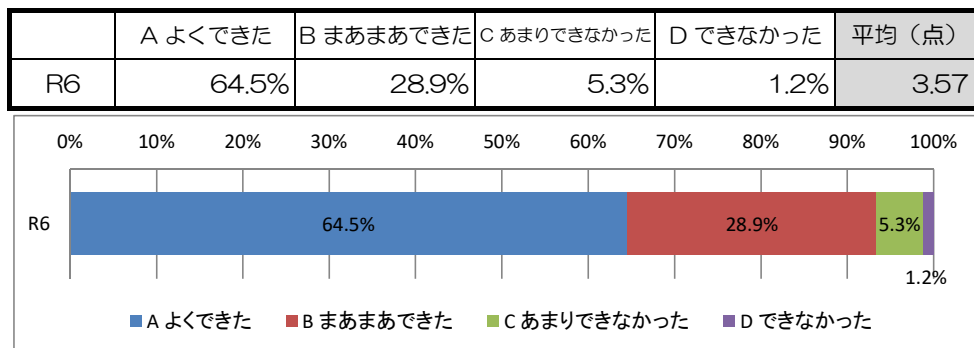


<参考> 令和6年度 生徒アンケート

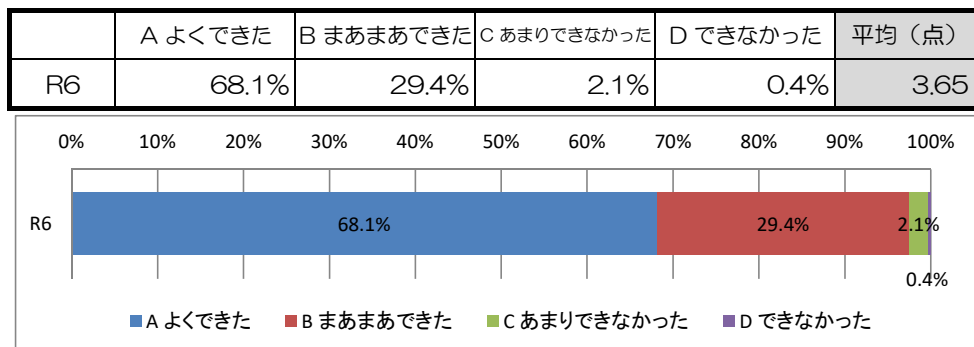
9 学級の係や委員会の取組をしっかりと行った。



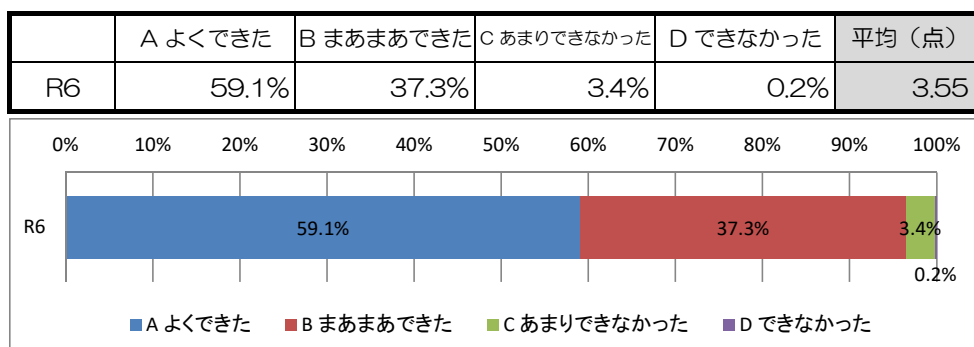
10 上尾中学校での生活に満足している。



11 あいさつや返事がしっかりできた。

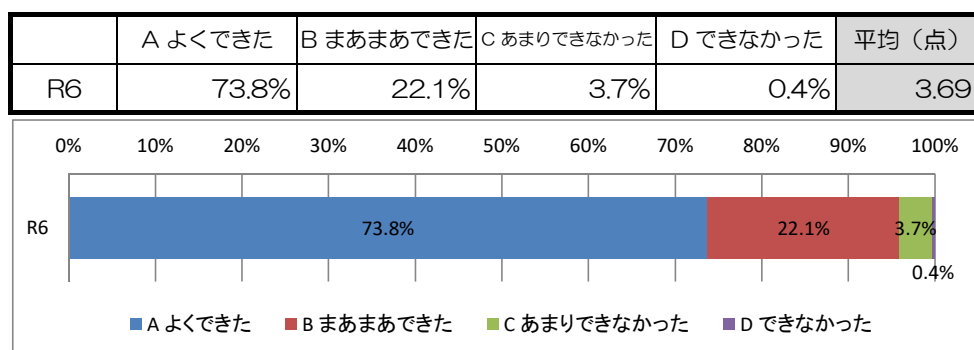


12 私語なし清掃にしっかり取り組むことができた。



<参考> 令和6年度 生徒アンケート

13 健康や安全に配慮して生活することができた。



令和6年度学校自己評価システムシート(上尾市立上尾中学校)

目 指 す 学 校 像	静かで、きれいで、温かい学校 ◎確かな力を育む学校 ◎地域と共にある学校 ◎和やかで温かい学校 ◎はつらつとした学校
重 点 目 標	1 基礎学力及び基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに主体的・対話的で深い学びを推進する。 2 教育相談体制を機能させ、きめ細かい丁寧な不登校対策を推進する。 3 市民・県民に誇れるコミュニティ・スクール上尾中の取組を推進する。 4 静かで、きれいで、温かい学校生活を維持・発展させる。 5 自らの働き方を見直し、持続可能で健全な職場をみんなで創る。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	教職員	3名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	取組目標	具体的方策	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・学力向上に向けて、授業改善をする1つの手段としてICTを活用しようと考えたとき、ネットワークが不安定なことから活用できないことが多い。 ・学年単位で使用することができない。使用する回数を増やしてなれる機会をつくるのが難しい。	①ICTを活用した学校行事の工夫や授業改善・工夫を積極的に進める。 ②e-ライブラリなどのデジタル教材を活用する。 ③学校課題研究と合わせて、授業改善や指導の見直しを行う。	①授業でICTを活用した実践事例研修を充実させる。 ②e-ライブラリを活用し、自習や家庭学習で取り組める課題を設定する。 ③研究推進委員会で協議した内容を共有するなどして、授業改善に活かす。	①ICT関係の校内研修を5回以上実施したが、授業での活用に苦慮している。 ②e-ライブラリは、不登校生徒や長期欠席生徒への課題として活用している。今後はさらに活用を増やす。 ③授業改善にかかわる研修を充実させることが難しい。	B	・ネットワーク環境が整わないと活用が難しい。 ・生徒がChromebookを持ち帰ることができるように制度を整える必要がある。
2	生徒や家庭の実情が多様化し、生徒指導・教育相談・特別支援教育の対応は複数対応ができており外部機関とも連携している。学校での組織的な対応、関係機関等とのより一層の連携をとる。	④生徒、保護者の立場に立ったきめ細かい丁寧な相談を行う。 ⑤教育相談委員会を中心として情報共有を進め、学校全体で組織的に対応する。 ⑥関係機関、SSW、さわやか相談員、SCと連携を密にして支援を実施する。	④相談室、学習室を活用する。丁寧な生徒・保護者対応を実施する ⑤教育相談委員会の内容は、回覧で全教職員に共有する。 ⑥必要に応じて関係機関と連携を図り、総合的な視点から支援を実施する。	④生徒指導は複数対応を徹底し、組織的に支援を行った。 ⑤生徒の実態を把握し、さまざまな支援を丁寧に実施できた。 ⑥情報共有、教育相談、発達検査等を関係機関と連携して実施できた。	A	生徒が学校生活の中で気持ちが悪く折れてしまい学校に登校することが難しくなる事例が増加傾向にある。手立ては限られるため根気よく支援を続ける。
3	地域の方々との協力し、清掃活動、書店のPOPデザインなど連携し実施ができた。学校運営協議会、PTAとも連携し、友誼祭を実施した。	⑦コミュニティ・スクールとしての積極的な情報発信を工夫する。 ⑧学校と地域が協働活動を充実させ、地域で子どもを育てる機会を増やし、教育活動を充実させる。	⑦積極的に職員会議などで情報発信する。 ⑧今までの活動は継続し、さらに地域と協力できる取組や行事等、検討を継続する。	⑦学校運営協議会での議題、内容を情報共有している。活動内容など、印象に残りづらいためか、様子が分からないと感じる場合がある。 ⑧例年通り、清掃活動や書店でのPOP掲示は実施できた。その他にもゲストティーチャーとして依頼するなど、行事以外にも連携することができた。	A	コミュニティ・スクールの活動、地域との繋がりはこれからも大切にする。また、職員や保護者などにも情報発信して、たくさんの方々をブラッシュアップを図る。
4	だれもが安心・安全に学校生活が送れるように、引き続き「静かで、きれいで、温かい学校」の実現を継続する必要がある。	⑨いじめの早期発見、早期対応を行い、誰もが安心できる学習環境を築く。 ⑩きれいな黒板、整った机、きれいな窓を維持する。 ⑪生徒も教師も、進んであいさつを行う。	⑨いじめ認知の共通理解からいじめ見逃しゼロを実現する。生徒指導委員会で毎週を確認する。 ⑩美化委員会、各学年の取組を中心に私語無し清掃に取り組む。 ⑪あいさつ運動や登下校指導を行い、啓発を図る。生活委員会の授業の号令チェックを実施する。	⑨生徒指導委員会を中心に生徒の共通理解を図り、早期に対応できるようにする。 ⑩清掃時間を確保し、きれいな黒板、整った机、きれいな窓を維持する必要がある。 ⑪毎朝登校指導を実施するなど啓発活動を継続した。	A	いじめ対策は引き続き教員間で連携をとりながら未然防止と早期対応に努める。生徒指導と教育相談を連携して取り組んでいる。清掃がない日課が多くなったため、来年度から見直し修正をする。
5	在校時間の縮減、事務処理の軽減、成績処理等への工夫が必要である。また、仕事分担の偏りを改善するなどの対策も必要と感じている。	⑫自らのワークライフバランスを問い直し、積極的な健康管理を行う。 ⑬業務の負担軽減のため、教育活動の見直し・改善を進める。	⑫部活動休養日の増加や時程の短縮など行事計画の調整をして、業務時間の確保を行った。 ⑬テストの採点やアンケート等をデジタル化し、業務の効率化を図った。校務支援システムを有効的に活用した。	⑫スクールサポートスタッフ、ICT支援員などと協力しながら業務分担を行った。 ⑬校内研修を実施した。デジタル化したシステムを導入した。メール配信などで配布物を管理した。	B	定時退勤推奨ウィークを実施した。また、校務分担の工夫や仕事量の見直しが引き続き、課題である。

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和7年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・アンケート結果より、あいさつの項目では、職員が「よくできた」と回答した割合が50%に対して、生徒は68.1%、保護者は24.5%と差異がある。家庭でのあいさつの有無が含まれた結果が表れたと予想できる。 ・保護者アンケートの中で、それぞれの質問項目に「D」と回答した理由を吸い上げるようにして、内容を検討できた方がよい。 ・SDGsについて、先生方は、計画的に授業をすすめているため、SDGsの視点を取り入れたシティズンシップ教育を研究推進することは継続する。 ・働き方(ワークライフバランス)についての内容では、削減できることとして、行事の削減や業務の負担軽減などの意見が出された。対策として、行事などについては、現行よりも増加させず、PTAや地域の方々との協力できることを増やしていくことを検討する。 ・コミュニティ・スクールの活動を職員だけでなく保護者にも理解してもらえる情報発信が必要である。情報発信をして認知されるような工夫が必要である。先生方の手助けになるような取組を今後も検討を継続する必要がある。 ・ICTを活用した授業や行事の工夫、改善を進めるが、ネットワークや機器の不調があったときの対応に苦慮している。